

平成 26 年 6 月 15 日現在

機関番号：32604

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520180

研究課題名(和文) 呉昌碩と日本人士

研究課題名(英文) Wu Changshuo and the Japanese masses

研究代表者

松村 茂樹 (MATSUMURA, Shigeki)

大妻女子大学・文学部・教授

研究者番号：70229532

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円、(間接経費) 720,000円

研究成果の概要(和文)：中国清末民初、詩・書・画・印四絶を誇り、「中国最後の文人」と称された呉昌碩と、当時の日本人士との交流を検証し、近代日中芸術文化交流の重要な一断面を明らかにすることができた。  
「中国最後の文人」との交流を求めた日本人士の多くが、中国の文墨趣味をたしなんでおり、そのことが、当時の急激な欧米化のアンチテーゼとなっていたこともうかがえ、これが大きな成果といえよう。

研究成果の概要(英文)：I inspected by poetry, calligraphy, picture and seal called "the Chinese last literary figure" Wu Changshuo and interchange with then Japan masses was able to clarify one important section of the Japan-China art cultural exchange at modern times.  
Most of the Japanese masses who demanded the interchange with "the Chinese last literary figure" enjoy a Chinese literary, pictorial and calligraphic activities hobby, and it watch that it was with antithesis of the sudden westernization in those days, and it may be said that this is big result.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：芸術学・芸術学、芸術史、芸術一般

キーワード：呉昌碩 文人 日中交流

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 近年、世界的に見て、呉昌碩および呉昌碩が領袖となっていた海上派(上海書画壇)は、注目されている。

(2) 研究代表者は、20年以上にわたり、呉昌碩を研究対象としており、日本人研究者という立場を生かして、呉昌碩と日本人士の交流について、日本側資料も使いつつ、研究を進めることは斯界に大きく貢献できることであった。

### 2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は、二つある。

一つは研究代表者が進めてきた呉昌碩研究の発展的展開であり、もう一つは近代日中芸術文化交流研究への貢献をはかることである。その貢献とは、次の二つである。

第一に、呉昌碩と日本人士の交流の実態を明らかにすることである。呉昌碩は、多くの日本人士と交流している。呉昌碩とこれら日本人士の交流の実態を明らかにすることにより、これまで看過されがちであった近代日中芸術文化交流の極めて重要な側面に光を当て得るであろう。

第二に、呉昌碩と交流した日本人士の胸中を明らかにすることである。呉昌碩は、近代にあっても、前近代的文人のスタイルを墨守して生きた。当時の日本人士の中には、そういった前近代的文人への憧憬が確実にあった。たとえば、呉昌碩に自用印を囑し、大切に使った文人宰相・犬養毅などは、旧文人への憧憬から来る中国尊重の姿勢を貫いており、それが彼の対中国穏和路線政策につながっていると思われる。このように従来とは別の側面からの分析を行い得るであろう。

(2) 呉昌碩に関しては、これまでに多くの研究がなされているが、そのほとんどが書画篆刻の作品論および顕彰的作家論である。本研究は、こういった流れとは別に、日本人士との交流を分析・検証することにより、呉昌碩を主体とした近代日中芸術文化交流研究の分野を立ち上げようとするものである。これが本研究の独創的な点と言えよう。

### 3. 研究の方法

(1) 本研究は、呉昌碩と日本人士の芸術文化交流の実態と意義を、日本側資料のみならず、中国側資料を精査することにより、明らかにすることを目的とする。よって、呉昌碩と日本人士がやりとりした詩文等および当該日本人士に関する資料収集が重要となる。

(2) 資料収集のため、図書館・資料館等での研究調査を行った。

呉昌碩および交流した日本人士に関する資料を収集するため、国立国会図書館、東京大学大学院法学政治学研究科附属近代日本法政史料センター(明治新聞雑誌文庫)、一橋大学附属図書館等、在京公共施設の所蔵資

料調査を継続して進めると共に、県立長崎図書館をはじめとする各地図書館や、岡山県郷土文化財団犬養木堂記念館等の個人記念館に蔵されている関係資料を徹底的に収集した。ただし、図書館や記念館に蔵されていない資料も多く、「日本の古本屋」「孔夫子」等のサイト検索を行う他、地道に古書店を巡り、古書目録にあたった。

(3) また、国内外の専門的知識提供者若干名によるシンポジウムを開いた。このことにより、研究の充実をはかると共に、研究が当初計画通りに進まない場合の助言を得ることができた。

(4) 論文執筆、学会発表は、各年度に行い、下記のような業績をあげることができた。また、従来の研究にこれらを含め、著書としてまとめる予定である。

### 4. 研究成果

(1) 研究期間中、研究代表者は、「日本における呉昌碩の受容」等の関連論文を11本執筆、「長尾雨山と呉昌碩」等の関連研究発表を5回実施した。

(2) 2013年8月17日、大妻女子大学で開催された第2回中国近現代文化研究会大会に併催する形で、筑波大学の菅野智明博士・准教授の科研費と共同して国際シンポジウム「近代書学の越境」を開催、米国ボストン大学の白謙慎(Qianshen Bai)博士・教授、香港中文大学の張惠儀博士・講師を基調講演講師に招き、菅野准教授と研究代表者も加わってパネルディスカッションを行った。

(3) 研究代表者は、同パネルディスカッションにおいて、「近代日本における正鋒意識と呉昌碩の重要性」と題した報告を行った。この報告の主旨に、白教授および張講師も大いに賛同された。

(4) また、2013年10月24日、研究代表者は呉昌碩が初代社長をつとめた学術団体である杭州の西泠印社110周年大会「西泠印社国際学術研究会」において、呉昌碩唯一の日本人弟子・河井荃廬と呉昌碩の関係を考察した提出論文「河井荃廬之親炙与私淑」に基づく研究発表を行い、研究者の関心を集めた。

(5) 研究代表者の呉昌碩研究が注目される理由の一つに、中国側資料のみならず、日本側第一次資料を使って論を展開している点があげられる。呉昌碩の書画篆刻作品が、大正期の日本で好評を博し、「呉昌碩熱」とも言われる現象を引き起こしたことが、呉昌碩に多大な影響を与えていることは、世界中の研究者の認識するところである。そんな中、研究代表者の研究は、興味関心を集めており、

その継続発展が望まれている。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計11件)

松村茂樹 「長尾雨山と呉昌碩」 2014『中国文化』72号 査読有 掲載決定済 ページ未定

松村茂樹 「長尾雨山が上海で参加した詩会について」 2014『日本中国学会報』66集 査読有 掲載決定済 ページ未定

松村茂樹 「日本における呉昌碩の受容 大正・昭和編(五)」 2013『中国近現代文化研究』14号 P.44-56 査読有

松村茂樹(季忠平訳) 「河井荃廬之親炙と私淑」 2013『西泠印社国際学術研 討会論文集』 P.1091-1096 査読有

松村茂樹 「呉昌碩が日本にもたらした もの—河井荃廬・長尾雨山を介しての伝 播」 2013『アジア遊学』168「近代中 国美術の胎動」 P.34-54 査読無

松村茂樹 「呉昌碩書画の長崎における 受容について」 2012『大妻女子大学紀 要-文系-』44号 P.109-117 査読無

松村茂樹 「日本における呉昌碩の受容 大正・昭和編(四)」 2012『中国近現代文化研究』13号 P.1-13 査読有

松村茂樹 「呉昌碩「魯道人重定詩文潤 格」をめぐって」 2011『大妻女子大学 紀要-文系-』43号 P.201-207 査読無

松村茂樹 「呉昌碩と日本文化界」 2011『書論』37号 P.140-149 査読無

松村茂樹 「日本における呉昌碩の受容 大正・昭和編(三)」 2011『中国近現代文化研究』12号 P.29-42 査読有

松村茂樹 「書画文墨趣味のネットワー ク」 2011『アジア遊学』146「民国期 美術へのまなざし」 P.41-50 査読無

[学会発表](計5件)

松村茂樹 「呉昌碩が日本にもたらした もの」 2014・3・9「グループレクチャ ャー 近代中国美術の諸相入門」アカ デミー文京学習室

松村茂樹 「河井荃廬之親炙と私淑」

2013・10・24 西泠印社国際学術研 討会 中国杭州・之江飯店

松村茂樹 「長尾雨山が上海で参加した 詩会について」 2013・10・13 日本中国 学会第65回大会 秋田大学

松村茂樹 「近代日本における正鋒意識 と呉昌碩の重要性」 2013・8・17 第2回 中国近現代文化研究会大会国際シンポ ジウム「近代書学の越境」 大妻女子大 学

松村茂樹 「長尾雨山と呉昌碩」 2013・ 6・29 中国文化学会大会 埼玉大学

[図書](計0件)

[産業財産権]  
出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

松村 茂樹 (MATSUMURA, Shigeki)  
大妻女子大学・文学部コミュニケーション 文化学科・教授  
研究者番号：70229532

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：

### (4) 研究協力者

上記の国際シンポジウム「近代書学の越境」開催にあたり、以下の各位の協力を得た。

白謙慎 (Qianshen, BAI)  
米国ボストン大学・教授

張恵儀 (ZHANG, Huiyi)  
香港中文大学・講師

菅野智明 (KANNO, Chiaki)  
筑波大学・准教授